

寺子屋（下司町）

明治五年に野田小学校（上野田、下野田、漆原）
尽誠小学校（和田、石生谷）、知新小学校（上氏
家、下氏家、当田）、春日分校（下司、鳥井）の
四つの学校が豊地区に出来ました。

それ以前は、どこにも学校が無かったので、読
み、書き、そろばんのできる人は、村でも数える
ほどしかいませんでした。

江戸時代的一般庶民は勉強よりも、働くことが
美德とされ、子どもも小さい頃から家の手伝いを
させられたり、子守りをさせられたりしました。

しかし、どうしても勉強のしたい人は、徳の高
い学問のある立派な人を先生に選んで、個人的に
習いに行きました。今でいう学習塾のようなもの
ですが、江戸時代は寺子屋と言いました。

寺子屋で本を読んだり、字を書いたり、そろば

んのけいこをして計算の仕方を習いました。

昔の人は、先生のことを師匠、生徒のことを門
人と言いました。

この寺子屋が寛政の頃（一八九〇年頃）下司町
にあったことが、浅野直右衛門家の古い掛軸から
分かりました。

鯖江市横越町にある真宗山元派本山證誠時の
管長東溟上人が書かれたもので、今の文章に直す
と次のようになります。

『浅野直右衛門という人は、優しくて情け深く、
誠である人で飾り気なく、質素であり、文字を
書くことも上手なことから、その名が、遠く、
近くに知れ渡り、その教えを受けたいという人
が百五十人とも言われた。一八四〇年八月十三
日、五十九才で亡くなられたので、門人達が相
談して南無阿弥陀仏の宝号と、師匠に平生の一
端を書き、後世に残したい』

このようにして、門人の残された掛軸は浅野家

ほぞんに保存され、毎年、八月十五日のお盆には床の間に飾られて先祖の遺徳を偲んでおられます。

浅野家の言い伝えでは、二代にわたって寺子屋をされたということです。

